

ターラさんについての「お知らせ」と「お礼」

昨年11月、残念なことですが、ターラさんは寛解状態の維持ができなくなり、白血病が再発しました。そのため、「この後の治療」について主治医と相談の上、ターラさんは抗がん剤治療を続ける道を再び選択するという決断をしました。

その後、移植の可能性を探った結果、親族の一人に適合率50%の方が見つかり、今年1月にその親族の方から末梢血幹細胞の提供を受け、移植の手術が行われました。

術後の状態は安定し、拒絶反応をうまく乗り越えることができ、驚くほど順調に回復の道をたどりました。そのため、3月初めには、このままの状態が続けば、「もうすぐ退院」との朗報を聞くこともでき、喜びに満たされていました。

しかし、その喜びも束の間、今度は免疫抑制剤の副作用が想定を上回るほどの強さで現れ始めました。その強い副作用のため、次第に体力が弱まっていきました。医療関係者の方々の懸命な努力の甲斐もなく、ターラさんは5月2日に天に召されました。

召される二週間前、ターラさんはお世話になった方々に自分の思いをしたためた手紙を託されました。彼女は死に直面しているにもかかわらず冷静で、恐れや不安から解放されており、その目に涙は見受けられませんでした。

この闘病生活の中で、ターラさんを最期まで支えていた聖書のことばは、

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っている……。」

－主の御告げ。－

それは、わざわいではなくて、平安を与える計画であり、

あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」 (エレミヤ29:11)

というエレミヤ書のことばでした。

私たち「ターラさんを支援する会」は、2012年1月の「白血病発病」以来、この3年4か月の間、ターラさんに寄り添ってきました。その月日の中で、皆様方からの温かい励ましや「移植募金活動」に対するご支援・ご協力をいただいたことは、私たちの活動にとって大きな励みになりました。

この会の活動を通して、私たちは“人の命”や“人の愛”について深く考え、思い巡らす機会を与えられました。また、皆様方、お一人、おひとりのご支援・ご協力に対し、心から感謝し、お礼を申し上げます。

なお、皆様方から「ターラさんを支援する会」に寄せられた募金の残高については、会の規約（※7. 募金の取り扱い（3））に従い、同じ病気で闘病中の方の支援のために、活用させていただくこととなりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

その具体的内容については、決まり次第ホームページ上に掲載し、お知らせいたします。

2015年5月13日

「ターラさんを支援する会」 岩原 吉治

※「ターラさんを支援する会」の規約

7. 募金の取り扱い

（3）移植後に資金が残った場合は、骨髄バンク寄付させていただく。